

筑波1分1秒台ながら乗り心地を犠牲にしないイマ流のクルマづくり



2・2ℓにボアアップされたエンジンに、ピックアップの向上を狙い、コンパクトなタービンを組み合わせる。その結果、低い回転域からでも厚いトルクが発生し、クルマを力強く引っ張ってくれる。

太いタイヤを履かせるためにオハバフェンダーを装着。ホイールはスポーツ走行には定番のTE37で、前後共9・5J12を装着。タイヤはハンコックのハイグリップラジアル「VENTUS RS3」の265 / 35R18を前後に履いている。



サスペンションはアベックス製をベースにオリジナルで開発。スプリングは敢えて2本のスプリングを組み合わせたセッティングにしている。リアはストロークを確保するためケースのショート化とロッドを延長済み。



リアのブラケットはバンプ時のトー変化を抑えるときに効果を発揮。ほかにもリアメンバーッシュにリアメンバーカラーを投入すると、足だけが動くようになり、シャープなハンドリングとリアトラクションアップに貢献する。



車内がメーターだらけだったり、ゴテゴテした部品が沢山装着されたクルマは、街乗りで同乗者を乗せたときに引いてしまう可能性がある。このマシンの内装はスッキリとシンプルにまとめられている。

ARMS spec.

最大出力	450ps
最大トルク	129kg/cm2
排気量	2164cc
タービン	HKS GT2835 Pro S
圧縮比	8.8
フロントパイプ	ARMS
エキマニ	BOSS
マフラー	APEX R95
ラジエター	TRUST アルミ2層
インタークーラー	HKS Sタイプ
フューエルポンプ	NISMO 高流量タイプ
エアクリナー	BLITZ SUS パワー
ブーストコントローラー	BLITZ SBC
ECU	APEX パワー FC
追加メーター	Defi プースト / 油圧 / 水温
ミッション	HPI 強化6速
クラッチ	ATS カーボンツイン
フライホイール	ATS
LSD	ATS カーボン 2Way
ファイナル	3.692 → 4.363 ヘ交換
タイヤ	HANKOOK VENTUS R-S3(F/R265/35R18)
ホイール	RAYS TE37(F/R9.5J × 18 12)

High Performance Cars Collection

2009年12月9日に筑波2000で開催されたレブスピード・筑波スーパーバトルにおいて、ラジアルタイヤで驚異の1分1秒1を記録し話題騒然となったARMSのS15。このマシンは、サーキットでのタイムアタック仕様である一方、街乗りの快適性と両立を果たした稀有なマシンなのである。

そのヒミツのひとつはスプリングにあった。じつはツインスプリングを採用しているのだが、すぐに線間密着するものではなく通常よりも硬いタイプのヘルバーツインスプリングを装着し、ふたつの異なるレートにより積極的に活かしたのだ。初期のストロークは軟らかく、奥ではしっかりと踏ん張ってくれる特性を狙ったもので、それが見事的中した結果となった。

エンジンのチューンにあたっては、かつてピークパワーを重視したためピーキーで乗りにくくタイムも出ないものをつくってしまった反省と、さらに扱いやすさを追求して仕様変更。2・2ℓ化されたエンジンにタービンはコンパクトなHKS2835Pro Sをチョイス。そしてカムの交換を行う。450psをマークするレスポンス重視のピックアップのよいエンジン仕様に仕上げた。

まさに長年S15チューンを手掛けてきたARMSならではのアイデアを活かした1台である。

さらにタイムアップを狙って
エンジンを製作中



筑波スーパーバトルで1分1秒を記録するアームズS15だが、さらなる高みをめざして現在仕様変更中。エンジンはSR史上最強のユニットと呼ばれるX-TRAILのヘッドを流用し、可変バルブ機構NEO VVLを搭載し筑波ラジアル1分切りを目指している。サスペンションもアベックスをベースにオリジナルで開発。こちらもとどまることを知らずつねに進化しているのが速さの秘密である

シルビアで夢を与えたい
そう思うから乗り続けています

長野でシルビアをメインにしたチューニングショップ・アームズを営む丸山淳一代表。デモカーもプライベートカーもシルビアという根柢からのシルビア好きだ。「始めはハチ口くでした。ありがちですが、あの頃はタダみたいな値段で転がっていて手に入りやすかったですから。あの軽さとかダイレクトな感じはいまでも好きですね。でも、シルビアはやっぱり持っているんだから、シルビアの方がもっと好きなのかもしれませんね。いままでのことを振り返ると、自分のクルマとしてハチ口く、シルビア、それからランエボにも乗りました。ランエボなんか速くてラクなんですけど、僕はやっぱりFRのシルビアが一番好きですね」という。

走った瞬間だった。そして、翌年の筑波スーパーバトル。アームズは再びシルビアで参戦する。アタックドライバードである木下みつひる選手とセットアップを繰り返して、480psを誇ったエンジンパワーは450psへと絞られた。これは木下選手からのリクエストで「ピークパワーより、踏んだ瞬間からのパワーが欲しい。そうすれば区間タイムを削れる」とのこと。タービンをGT3037からGT2835へと変更。よりビックアップを重視した味付けとされた。その甲斐あってタイムは1分1秒1をマーク。ラジアルタイヤでは驚異的なタイムを記録した。

トを楽しむ若いシルビアユーザーが多い。そんな若者達の駆け込み寺的存在になっているアームズでは彼らを積極的にサポートしている。LSDが不調のユーザーには「脱着工賃掛かるから自分で外して持っておいでよ。したら工賃安く済むし、オイルも変えたばかりなら綺麗なお掃除で抜いてまた入れればいい。それならだいたい安くできるよ」とアドバイスすることもある。「僕自身、若い頃からクルマが好きで、給料のほとんどはクルマで、服も買えなかったの、毎日Tシャツ着て過していました。だから、いまの若い子達を応援してあげたいんです。それでシルビアで楽しんで欲しい。だから、そういうアドバイスもしちゃうんです。本当、商人としてはダメですよ」と笑う。

現在「デモカーのシルビアは仕様変更中。エクストレイルのSR史上最強ユニットを移植してさらにパワーとトルクアップを目指す。また、09年よりサスペンションは、1本のサスに10kg/mmと9kg/mmなどほぼ同レベルのパネを2本直列に組み合わせる手法を採用。これは初期のストロークを確保しつつ、奥での踏ん張りが増えるというところで選ばれた方法で、タイムアップの大きな要因のひとつでもある。」「もっともっと煮詰めて今年1分を切りたい。シルビアでここまでできるんだという夢を多くの人に与えていきたいんです」と語る。

TUNER'S COLUMN

～オレとシルビア～

もっともっとシルビア乗りが増えて欲しいなあって思うんです



ARMS 代表
丸山淳一

シルビアのチューニングを得意とし、筑波スーパーバトルに突如激速シルビアで現れたアームズ。その速さの秘密は丸山代表によるコツコツとしたチューニングの積み重ねで、マシン之美しさにもそれが現れている

■ ARMS
長野県長野市屋島 2336-8
☎ 026-252-5220